

「ウィザス」は、ウィズアス=with us “共に生きる—男女共生社会”の理念を表しています。

特集

子育て期の女性たち

—仕事と家庭の調和
(ワーク・ライフ・バランス)の
実現に向けて—

ウィザス

女性ニュース ● 「セクハラやじ問題」の行方

今年6月18日、東京都議会で起きた「セクハラやじ問題」、その後の顛末については、まだ記憶に新しいと云えます。

みんなの党会派の塩村文夏都議が妊娠や出産に悩む女性への支援策について都側に質問していた際に、男性の声で「自分が早く結婚したらいいじゃないか」「産めないのか」といったやじが飛び、議場ではこれに同調する声や笑いが起きたというもので、その様子はその日のニュースでも大きく報じられました。

塩村都議は質問終了後、報道陣に「女性の気持ちを代弁していただけないかと、悲しい」と述べています。

この問題は、東京都への千件を超える抗議をはじめとして、国内外でも批判的に報じられ、ウォール・ストリート・ジャーナル、ロイター通信、CNN、USA TODAY、タイムズ、ガーディア

ン、BBC等では発言者を「性差別主義者」として報道しました。

その後、やじは自民党議員席から聞こえたという証言があり、調査の結果一部特定された都議の謝罪会見をはじめ自民党中央の石破幹事長や高市政調会長といった役員も謝罪しています。

しかし、一番問題視された「産めないのか」「発言者は特定されないまま都議会閉会、さらに4月の国会・総務委員会での上西小百合衆議院議員に対する「セクハラやじ問題」も発覚しました。やじを飛ばし、「謝罪さえすれば問題なし」と考える人たちに、はたして今回の問題の根の深さは理解できたのでしょうか。

女性の活躍できる社会の創造を日本の成長戦略の中核とした安倍内閣のお膝下で露呈した今回の騒動、問題の本質を理解し、「男女共同参画社会の実現」を幻にしたいものではないのです。



絵 A.S

平成26年度 市民企画講座

【ちきゅうっ子応援隊】

- 講座名 今日からイクメン—お父さん・お母さん・家族一緒に遊ぼう—
- 日程 全5回 / 9月6日・10月25日・12月6日・27日・1月24日(土)
- ※時間は、いずれも午前10時～11時
- 会場 男女共同参画センター
- 対象 保護者と3歳～小学校低学年の子ども・先着10組
- 一時保育 2歳児・先着4人(1人300円)〈要予約〉

【NPO法人「絵本で子育て」センター 絵がお】

- 講座名 子どもの育ちは絵本とともに—みんなであそぼう!—
- 日程 ①イベント / 9月20日・10月11日・11月8日・22日(土)
- ②木曜講座 / 10月2日・16日・30日・11月13日・27日(木)
- ※時間は、いずれも午前10時～11時30分
- 会場 男女共同参画センター
- 対象 ①親子・先着10組 ②大人16人(子ども同伴・先着5組)
- 一時保育 ②のみ、2歳以上就学前児・先着4人(1人300円)〈要予約〉

コミュニケーション講座 「ほめ日記」

■日 時 9月27日(土)午前10時～11時30分

■会場 男女共同参画センター

■講師 「ほめ日記」インストラクター・山田 容子さん

■内容 自分を好きになるレッスン

■対象 テーマに関心のあるかた(男性も歓迎)・先着24人

■一時保育 2歳以上就学前児・先着4人(1人300円)〈要予約〉

■申し込み 9月1日(月)から、男女共同参画センターへ

※定員になり次第、締め切ります。

一時保育つき大人の読書タイム

子育て中の皆さん、毎月第3火曜日の2時間、ゆっくりとお好きな本を読んでみませんか？
あなたの読書中、お子さんはウィザスあしやの保育室でお預かりします。

■日 時 9月16日(火)・10月21日(火)・11月18日(火)

①午前10時～正午②午後1時～3時 ※①②各・先着4人

■会場 男女共同参画センター

■対象 子育て中の親(祖父母を含む)と子ども(2歳以上就学前児)

■一時保育 午前・午後とも、先着各4人(1人300円)〈要予約〉

■申し込み 各月1日から、電話(TEL.38-2023)でセンターへ

編集後記

いま、地方議会がかまびすしい。国政レベルの情報は、テレビや新聞などを通してもたらされることが多い。地方自治体も重要な役割を果たしているのだが、マスコミが正面から取り扱う機会が少なく情報量が少ないため、ややもすれば住民の関心が薄くなり、情報の共有化が難しい側面があることは否めない。

さて、7月から編集ボランティア4人が加わった。ウィザスが多くの皆さんの目にとまり、日常生活で男女共同参画の理念をさらに深化される契機になれば、幸いです。

(伏野)

ワーク・ライフ・バランス

非婚願望の発端？

A.S.



女性相談

無料相談・予約専用電話 TEL.38-2022

～ご相談には、予約が必要です～

- 日程 ①第1土曜日 ②第1～4金曜日
- 時間 ①午前10時～正午(1人50分)
- ②午前11時～午後4時(1人50分)
- 内容 女性が抱えるさまざまな悩み
- ※ 一時保育(無料)あり(要予約)

ウィザス No.78

平成26年9月発行(秋号)

編集・発行 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

〒659-0065 芦屋市公光町5-8(公光分庁舎・北館1階)

TEL.0797-38-2023 / FAX.0797-38-2175

Eメール josei-ce@city.ashiya.lg.jp

■開館：月曜日～土曜日・午前9時～午後5時30分

■休館：日曜日・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)

ホームページ <http://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/wiwithus/centerwithus.html>



男性にとっての男女共同参画

気になる 統計・調査結果

◆育児に参加したい男性は結構多い

内閣府から「男性にとっての男女共同参画」に関する意識調査報告書が、昨年4月に公表されました。

同調査(男女各3,000人対象)では、約3割強の男性が両立支援制度(育児休業制度・育児のための短時間勤務制度)を利用したいと考えているという結果でした。

男性の育児取得率が2%にも満たない一方、育児に参加したいと考えている男性は思いのほか多いようです。

◆長時間労働は「評価のため」

昨年9月、日本生活協同組合連合会が1,200人を対象に実施した全国ネット調査では、仕事と生活の調和を図る「ワーク・ライフ・バランス」が進まない原因として、『長時間労働をしないと、会社での評価が下がる』と考える20代が多い(男性47%・女性35%)ことが分かりました。

管理職クラスの世代は長時間労働がすぐに評価につながるものではないと思っても、若手社員は「評価」につながるのではと気にしている実態が見えます。

◆変わりゆく男性の仕事と暮らし (H26. 男女共同参画白書)

本白書では、かつて典型的とされた「夫婦と子ども」世帯を単独世帯が上回り、その背景には高齢化に加え近年の未婚率の上昇が考えられると分析しています。

就業環境でも、共働き家庭の増加や終身雇用の減少に伴った転職の活発化、若い男性非正規雇用の増加、男性賃金の減少傾向などが挙げられています。

こうした現状から言えるのは、家族類型、産業、就業スタイル、個人・社会生活のあらゆる面で変化や多様化が進んでおり、「主力」・「標準的」・「典型的」といった言葉で表せるような特定のモデルはもはや存在しなくなったということです。



H. M

今日と明日のお姫様はどう生きるか

ティズニー映画「アナと雪の女王」の興行収入が、7月19日現在250億円を突破しました。日本歴代興行収入記録で「千と千尋の神隠し」「タイタニック」に次ぐ3位です。

その人気の秘密は、声優のキャスティングや音楽の良さだと言われています。また「自立した女性の力」というテーマも受け入れられたのかも知れません。

幼少時から目に触れるアニメや絵本などが、子どもたちの成長に無関係ではありません。意識せずに手に取っている絵本や目にする物語が、知らず知らずのうちに「女性はこうあるべき、男性はこうあるべき」という固定観念を植え付けるのです。

有名なお姫様物語によくあるストーリーパターンに、苦難に直面したお姫様を勇気のある王子様が救いに行き、悪者を退治して、救い出されたお姫様と結婚するというものがあります。

美しい姿と声の持ち主のお姫様は、自らの力で人生を切り開こうとはしません。継母の意地悪にも自分の不幸な境遇にも、じっと耐え忍びます。ただひたすら、素直に従順に、いつか現れるはずの王子様を待ち続けます。

—このような物語に触れ続け、現実の世界でも「いつか王子様が現れる」と思い込んでいるのは一見夢があるように思われがちですが、危うさを含んでいます。現実の世界での「王子様」とのゴールインは結婚で終わりはありません。そこからの長い道のりこそが結婚生活なのです。もし「王子様」が他のお姫様に心変わりしたら…、職を失ったら…、健康を損なったら…、そもそも現われなかったら…、考えられるトラブルは少なくありません。

自分の人生の主人公である「お姫様(自分)」が、自らの力で人生を切り開く能力をつけてこそ、現実の世界で現れた「王子様」と対等に安心した生活を楽しめ、現れなかった場合でも自分の足で人生を歩んでいくことができます。

どう生きるかは、自分で選ぶのです。性別の違いではなく個性を尊重する物語を子どもたちに手渡すのは、子どもたちにかかわる大人の責任ではないでしょうか。(村上)

【オススメ絵本】

- ◆「ますだくんのランドセル」武田美穂 ポプラ社
- ◆「おんぶはこりこり」アンソニー・ブラウン 平凡社
- ◆「おりょうりとうさん」さとうわきこ フレーベル館
- ◆「スモールさんはおとうさん」ロイス・レンスキー 童話館出版

働きやすく、介護・子育てのしやすい社会

ワーク・ライフ・バランス

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらします。一方で、家事・育児・近隣との付き合いなどの生活も、暮らしに欠かすことができないものであり、その充実があつてこそ、人生の生きがいや喜びは倍増します。国では「日本再興戦略」を成長軌道に乗せるための改訂戦略が本年6月に閣議決定され、「育児・家事支援環境の整備」「企業等における女性の登用を促進するための環境整備」「働き方に中立的な税制・社会保障制度等への見直し」が、具体的施策として進められています。

また各企業でも、男性社員の育児・介護休暇等の取得促進や長時間労働抑制、在宅勤務等への取り組みが進められ、男女とも自分らしい「ワーク・

ライフ・バランス」が選択しやすいうように、徐々に環境整備がされようとしています。

もちろん、本市でも「第3次ウィザス・プラン」において、「子育てや介護を支える環境の整備、ワーク・ライフ・バランスの促進」を重点課題として、長時間労働の抑制や育児休業の取得促進等の周知啓発に取り組んでいます。

輝ける女性であるために

女性が経済社会で活躍していくには、女性を取り巻いているさまざまな社会的要因による男女間の格差を改善していかなければなりません。そのためには、まず最初にすべての人が「男は仕事、女は家事・育児」といった「固定的性別役割分業意識」から自由になる必要があるでしょう。



H. M

イクメンは、家族・日本を救う

共働き世帯が過半数となった現在、夫が長時間労働を減らして家事・育児をする分、妻は仕事をする中で夫婦の不公平感はなくなくなり、孤立感や育児ストレスをかわすことができ、夫への経済的依存も減ります。夫のイクメン化が定着していけば、子育てを楽しむながら、夫婦ともにそれぞれの自分らしい「ワーク・ライフ・バランス」を実現していけるようになるのではないのでしょうか。



H. M

現代は子育てが困難な時代と言われます。子育て中の人々からは育児ストレスやノイローゼに苦しんでいる声が聞かれ、これから子どもを産む世代の人々からも子育てに関する不安の声が聞かれます。また、現在が出産・育児期にあたる20代後半から40歳までは「就職氷河期」「超氷河期」と言われた時代に就職時期を迎えた人たちが、非正規雇用者も多く、経済的にも不安定な世代です。現代の子育ての困難さの背景には、少子化や核家族化の進行のほか、こうした働き方の変化や賃金格差の問題、また育児観の男女差・世代差など、さまざまな問題がからまり合っています。

「出産・育児」と仕事

第1子出産を機に、約6割の女性が離職している日本では、多くの女性が出産・育児期間に仕事を辞めて家事・育児に専念し、子育てが終了した時点で再就職する「M字型就労」が一般的と言われてきました。これは、主に女性に家事・育児

子育て期の女性たち —仕事と家庭の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現に向けて—

仕事と子育ての両立 — 女性たちのジレンマ

子育てが困難な時代現代は子育てが困難な時代と言われます。子育て中の人々からは育児ストレスやノイローゼに苦しんでいる声が聞かれ、これから子どもを産む世代の人々からも子育てに関する不安の声が聞かれます。また、現在が出産・育児期にあたる20代後半から40歳までは「就職氷河期」「超氷河期」と言われた時代に就職時期を迎えた人たちが、非正規雇用者も多く、経済的にも不安定な世代です。現代の子育ての困難さの背景には、少子化や核家族化の進行のほか、こうした働き方の変化や賃金格差の問題、また育児観の男女差・世代差など、さまざまな問題がからまり合っています。

開いた「パンドラの箱」

このところ、出産離職後の女性の職場復帰の時期はしだいに早くなっています。かつては「末子が就学年齢(6歳)に達したとき」が多数派でし

を負担させるという性別役割分業意識が今も根強く残っていることを示しており、また女性が働き続けるための条件が整っていないことも意味しています。さらにM字型が示す問題は、一時離職で女性の平均勤続年数が男性より短くなり、男女間の賃金格差や管理職比率の差異を生む原因となっている点です。

若年女性の貧困問題

「男女雇用均等法」の施行から30年近くが過ぎました。この間、仕事に就く女性は増えてきましたが、正規雇用の数は増えていません。非正規労働は正社員に比べて雇用も不安定で低賃金、労働条件はあらゆる面で劣悪です。昨年7月、総務省が発表した

「就業構造基本調査」によれば、いまや全労働者の約4割の人が非正規雇用で、なかでも女性の非正規の比率は57.5%と、半数を大きく上回っています。非正規雇用の多い若年層の人たちにとって、将来にかかわる雇用への不安は、男女とも結婚・出産をためらう一因ともなっているでしょう。

また、安定した仕事や安心して住める場所が確保できないという単身女性や、若いシングルマザーたちの深刻な生活問題も、近年顕在化してきています。



H. M

第3次 ウィザス・プラン

「市民意識調査」(平成23年実施)

平成25年3月策定の「第3次プラン」基礎資料とするため、18歳以上の芦屋市民2,000人を対象に実施。

◆男女の平等意識

すべての調査項目で、男性に比べ、特に18歳～50歳代の女性は「男性が優遇されている」と感じており、男女の意識に差が見られました。

◆子どもの教育について

子どもに期待する生き方についても、性別役割分業意識が影響していることがうかがえました。

◆職業生活について

M字型就労を支持する人が約4割と、最も高くなっています。

女性が仕事を継続する上での問題点は、「家族の協力や理解、育児や介護など」が最も高く(54.3%)、18歳～30歳代では、子育て家庭支援や再就職支援の充実を求める人が5割を超えています。

「ワーク・ライフ・バランス」については、『調和』を理想とする人は7割近くいるものの、現実には『仕事優先』と考える人が最も多く(61.7%)、特に男性は女性に比べてその傾向が高いという結果が出ています。

